

— 国際研究会報告 — 採取産業透明性イニシアティブ（EITI）の 最近の動向

金属資源開発調査企画グループ企画チーム 担当調査役
uematsu-kazuhiko@jogmec.go.jp

植松 和彦

本稿では、開発対象国における健全な経済発展に資するため、政府、産業界、市民団体等すべてのステークホルダーが参加し取り組んでいる『採取（資源）産業透明性イニシアティブ（EITI）』に関し、国際鉛亜鉛研究会（ILZSG）の Insight No.20（2005 年 10 月に掲載された『Update on the Extractive Industries Transparency Initiative（採取産業透明性イニシアティブの最近の動向）』）につき翻訳資料を紹介する。

国際鉛・亜鉛研究会（ILZSG）インサイト ILZSG 事務局報告資料 2005 年 10 月— No.20

採取産業透明性イニシアティブ（Extractive Industries Transparency Initiative：EITI）の最近の動向

本稿は、採取産業透明性イニシアティブ（EITI）に関して最新の動向を提供するものである。EITI は、2002 年 9 月にヨハネスブルグで開催された持続可能な開発に関する世界サミットにおいてイギリスのブレア首相により提唱されたものである。その背景には、発展途上国において資源開発産業からもたらされる収益が、開発に寄与しておらず、政府が説明責任も果たしていないという懸念があったからであった。EITI が目的としているのは：

- 資源開発は、持続可能な経済成長の基盤を提供するという考えを広めること。
- 採取産業のすべての関係者（例：政府機関—生産国、本国、先進国、移行国、発展途上国、企業—石油、ガス、鉱業、サービス企業、国際機関、NGO）をまとめ、グッドガバナンス、透明性の確保が不可欠であり実現するに最適な方法を模索すること。
- 採取産業における資金の流れの透明性を確保するフレームワークを確立すること。

2005 年 3 月、英国政府は、ロンドンにて EITI 会合を開催し進展を確認した。この会合以後、様々な進展があった。2005 年 8 月 26 日には、EITI 国際諮問グループ（EITI International Advisory Group：IAG）が発足し最初の会合が開催された。7 月の G8 サミットで EITI 活動が支持された。またペルーがこの EITI に参画することが確認され、主要な鉛・亜鉛生産国で発展途上国としては最初の実施国となった。

本書では、EITI の最近の動向を要約し、鉛・亜鉛産業にとって EITI がどのような意味を持つか再検討する。本研究会加盟国代表は、本書を政府機関および産業界と共有していただきたい。

1. はじめに

本書は、EITI の最新の進展がどのように加盟国の鉛・亜鉛産業に影響を与える可能性があるかについて述べる。

EITI は、グッドガバナンスとアカウンタビリティの原則を初めて世界の採取産業（石油、ガス、鉱業）とその産業を規制する政府に対して導入したという点で意義がある。重要なことは、天然資源の分別ある開発により持続可能な開発に貢献する持続可能な経済成長の基盤を提供できると認識されたことである。

2. EITI の発足

2002 年 9 月、英国のブレア首相は、南アフリカヨハネスブルグで開催された持続可能な開発に関する世界サミットにおいて EITI を提唱した。EITI は、企業およびその母国政府が、発展途上国の資源開発からもたらされた収益を十分に開示していないのではないかとこの先進国の懸念に対応したものであった。この透明性の欠如により、不正流用の温床となり、社会全体の利益となるような公正な使用を妨げているのではないかと考えられた。

3. 2005 年 3 月の EITI ロンドン会合

EITI 会合が 2005 年 3 月 17 日ロンドンで開催され、300 名の代表団が参加した。世界銀行の James Wolfensohn 総裁が講演を行った。この会合の目的は、2003 年に開催された EITI ステークホルダー会合（ILZSG も招待された）に引き続いて、政府および採取産業が、進展している EITI に対して自らの立場を表明する場を提供することであった。この会合では、

国際諮問グループ (International Advisory Group: IAG) が設置された。議長には、NGO のトランスペレンシー・インターナショナル (Transparency International: TI) 創設者が就任し、実施国が増大していく中でこの EITI をどのように組織していくべきかを決定することになった。

IAG は、実施国政府、援助国政府、企業、市民団体、投資家から構成されている。世界銀行、IMF、英国国際開発省 (DFID) は、事務局としてこの活動を支援している。IAG には、以下の 3 つの主要な目的がある。

- 透明性の明確なルールを促進すること。
- 様々な国における EITI の実施状況をモニターする方法を構築すること。
- EITI を十分に実施した国を表彰すること。

IAG の職務は、上記目的に沿うインセンティブ、検証、将来のガバナンスの問題に取り組むこと、今後報告書を作成し、EITI を実施することが国や企業にとっても利益になることを明確に述べていくこと。また EITI を実施している国、いない国を国際的に合意された基準により評価する方法の開発を検討することである。そして、IAG が、主要な機能を果たしていると国際的に認識され、EITI が持続可能な形で成功するように実施することである。

4. 世界の鉱業界の見解

2005 年に開催された EITI に関するワークショップで、国際金属・鉱業評議会 (the International Council on Mining and Metals : ICMM) は、鉱業界の見解を表明した。ICMM は、本会合の目的を歓迎し、収益の透明性に関する決定について主権国家の権利を尊重することを明確に示した。しかし、透明性を更に向上させることにより、汚職と戦い、採取産業からの収益を持続可能な形で使用するための議論を促進させることに役立つと ICMM は認識している。正しく機能している経済、そしてグッドガバナンスにとって、収益の透明性が重要であることを考慮し、ICMM の加盟メンバーが、これらの原則を採択した政府を支援し、十分に協力すると ICMM は宣言した。ICMM に加え、主要鉱山会社 2 社—Anglo American plc 社、Rio Tinto plc 社からも個別の声明が出された。

鉱業産業界の EITI に関する見解は、以下のように要約される。

- 鉱業界は、IAG の考えを支援するものとする。ただし、IAG は、現実的な結果を考慮して、EITI パイロットスキームのモデルに従うものとする。
- 鉱業界は、資源への投資にとって、透明性、アカウンタビリティを確保する環境を育成することが

政府の利益になると考える。

- 鉱山会社は、グッドガバナンスの欠如が発展途上国の将来の投資にとって重大な障壁になると見なしている。
- 鉱業界は、EITI が政府、鉱山会社、NGO により共通認識されれば、EITI は非常に価値のあるものになると考える。

ICMM は、EITI 実施国政府が支払う通常の出版物に対して支援を行うと発表した。信頼できる、独立した、公表される監査の支払いについて支援し、この分野における市民社会の関与も支援すると誓約した。また、「費用が見積もられ期限が定められた公開される合意された行動計画」の実施に貢献し、計画で定められた目標に対する達成度を定期的に評価することも提案した。

5. EITI と鉛・亜鉛鉱業との関連性

主要な鉛・亜鉛鉱業の国際企業は、すでにグッドガバナンスを実施することを明言しており、EITI へのデータの提供や参画推進のメカニズムをきちんと機能させている。主要な鉛・亜鉛鉱山会社の中には、EITI の実施方法について国内の同業の中小企業に対して指導支援することを明言している。

鉛・亜鉛を採掘する国も、EITI の遵守を保証するために追加的なメカニズムを構築する必要がある。具体的には、地方政府、地域政府、中央政府間での報告体制を統一させていく必要がある (特に、連邦制をとっている国にとっては必要である)。EITI 国家パイロットスキームは、今開発中であるが、この点に関して指針を提案すべきである。

6. 最近の進展

IAG 会合

IAG の最初の会合は、2005 年 8 月 26 日に開催され、政府、産業界、NGO から 13 名が参加し、世界銀行、IMF、英国国際開発省からも代表者が出席した。この会合には以下を含む様々なテーマが話し合われた。

- 将来の EITI ビジョン/構想
- 実施のためのインセンティブ
- EITI 実施に対する検証
- EITI のガバナンス

IAG 会合が支持しているビジョンは、市民グループの関与を深めること、そして、鉱山会社本社のある主要な非 OECD 諸国 (例：ブラジル、中国、インド、ロシア) をこの構想に含める戦略を進めていくことであった。EITI が、「狭く深い」アプローチを取っていく—つまり、問題の範囲を広げるが参加国が限定されるか、「浅く広い」アプローチを取っていく—つまり現状の基

準を踏襲しもっと多くの国に拡大させるかという問題も話し合われた。

IAG は、EITI に参画しない国々にとっての阻害要因と EITI に参画させるためのインセンティブとでいかにバランスを取るかを検討した。国際的に合意された最低基準に照らして、EITI の実施国の検証をすることが EITI の信頼性を維持するために必要であることも合意された。IAG は IMF 及び世界銀行に対し、この検証を行うという役割を果たすよう要請したが、IMF は、EITI への関与範囲を超えることになる発言しこの役割を辞退した。世界銀行も同様の声明を発表したが、この件は今後内部で検討したいと述べた。

英国は、EITI へ経済的、人的資源を提供している。しかし、今後この状態で EITI が進展すると、EITI が主として英国政府により推進されていると見られ国によっては、ネガティブな認識を持つ危険性があると IAG は指摘した。ノルウェーは、今後 EITI への支援を増すことを誓約し、次回 2006 年の EITI 国際会合の開催国になる可能性を明言した。EITI が英国国際開発省主催から他の機関に移ることになっても、既存の EITI への理解があるものにすべきだと会合で合意された。また、EITI へ参画する国および企業は、自身のコミットメントの証拠として資金を拠出することも合意された。その結果、EITI から利益を得る国や企業が、EITI の維持に貢献できるからである。

G8 サミット

EITI は、2005 年 7 月 6～8 日にスコットランドのグレンイーグルで開催された G8 サミットで国家レベルの支持を得た。先進主要 8 か国は、EITI および EITI を実施する国に対する支持を増大させることを約束した。そして、資源豊富なアフリカ諸国が EITI および同様の透明性原則を実施すること、そして世界銀行、IMF、地域開発銀行に対して支援をすることを要望した。また併せて EITI 実施を確認する適切な基準の開発に対して支援することを表明した。

ペルーの参画

ペルーのエネルギー鉱山省は、2005 年 5 月、EITI に参画する宣言を発表した。ペルー政府は、マルチステークホルダー EITI 委員会と協働し、EITI 実施に向けた宣言を作成した。ペルーは、主要な鉛・亜鉛生産国であり発展途上国としては、初めての EITI への参加国となった。ペルーのプログラムには 2 つの主要な要素がある。

- 石油、ガス、鉱業から得られる収益について完全に透明性が確保されるメカニズムを構築すること。
- 中央、地域、地方レベルでの関連当局へのすべての収支の透明性を確保すること。

ペルーは、採取産業から地域政府、地方政府への収入に関する情報は公開されるようになった。「Propuesta Ciudadana」という市民団体も、国内採取産業に関する報告書を発表している。

7. ILZSG が今後考慮したい活動

- メンバーが、EITI のプロセスについてある特定分野に関する説明を求めるために ILZSG 事務局にコンタクトをとること。
- メンバー国は、EITI に政府として参画するかどうか検討すること。
- 鉛・亜鉛産業が最新の EITI の進展に興味を持つようにさせ、EITI プロセスをどのように支援できるか議論を促進させること。

8. 役立つ情報源

EITI に関する詳しい情報の入手に役立つウェブサイトは以下のとおり。

www.eitransparency.org : EITI のウェブサイト
www.icmm.com : ICMM のウェブサイト
www.publishwhatyoupay.org : 透明性促進のための NGO 連合のウェブサイト
www.transparency.org : 国際的な汚職追放運動を推進する市民組織

ILZSG

2005 年 10 月

(2006.5.22)